

口や、のどのがんについて治療法などが紹介された公開講座



頭頸部がんセンター

が治療法などの理解を深めた。

（山陽新聞社共催）が15日、岡山市北区駅元町の岡山コンベンションセンターであり、市民285人が

頭頸部がん

治療法など紹介

岡山大病院
センター
公開講座に285人

岡山大病院頭頸部がんセンターの開設1年半を記念した市民公開講座「もっと知ってほしい口・のどがん」

の木股敬裕センター長が「頭頸部がんは首から上の脳や目を除く部分に生じる。治療では会話、摂食といった生活の質の維持が重要で切除、再建などに幅広いチーム医療で対応している」と述べた。小野田友男副センター長、白川靖博消化管外科講師が舌がんや食道がんの内視鏡手術な

ど紹介し「喫煙や飲酒がリスクを高める」と警鐘を鳴らした。

寛仁親王の主治医を務めた海老原敏・国立がん研究センター東病院名誉院長が「がん診療五十年の歩み」と題

して特別講演。パネルディスカッションもあった。

頭頸部がんセンターは昨年4月、医科・歯科が連携し国立大学病院では初めて開設された。（大立貴巳）